

2021 年度

金城学院大学 自己点検・評価報告書

金城学院大学 内部質保証推進会議

目 次

金城学院大学自己点検・評価報告書について	-----	3
金城学院大学内部質保証の方針	-----	4
金城学院中期計画 大学アクションプラン 分掌表	-----	6
金城学院中期計画 大学アクションプラン 2021 年度進捗状況	-----	9

金城学院大学自己点検・評価報告書について

金城学院大学
学長 小室尚子

金城学院大学では、教育研究の質の向上と社会的責務を果たしていくために毎年自己点検・評価を実施しています。

本学は、2019年度に、「金城学院大学内部質保証の方針」を定めるとともに、これまで自己点検・評価を中心的に担ってきた金城学院大学自己評価委員会を改組し、金城学院大学内部質保証推進会議（以下「推進会議」）を設置しました。また、全学的な質保証の対象から教育に関する全学的な内部質保証の取り組み（教学マネジメント）を分立させ、これを統括・推進する組織として、既存の組織である教育課程編成会議（以下「編成会議」）の機能を拡充させています。

この「自己点検・評価報告書」は、本学における各委員会や各部門（以下「各委員会等」）がみずからの活動について点検・評価した報告をまとめ、これを推進会議において最終的に審議・承認したものです。各委員会等の活動は、その到達期限を定めた「中期計画到達目標」を踏まえて策定された年度活動計画に従って執り行われます。この「中期計画到達目標」は、「金城学院中期計画（2020～2024）」におけるアクションプランに基づいて、定められたものであり、このことは本学における各委員会等の活動が、第一に学院の基本方針に基づくものであることを示すものでもあります。

本学におけるこうした諸活動について、本学では、自己点検・評価を通じた以下のようなPDCAサイクルによって、質保証を行っています。

まず、毎年3月に各委員会等で策定された次年度「活動計画」(Plan)について、推進会議が審議し、改善・向上等の指示を経て、これを承認します。この活動目標に基づき各委員会等で1年間活動を行い(Do)、その結果を2月に「活動報告」として推進会議に提出します。その後、推進会議小委員会による評価・検証と、推進会議での審議を経て(Check)、次年度の活動につなげていきます(Action)。

この推進会議から本学における全学的な教学マネジメントについて付託されているのが編成会議です。編成会議は、教学マネジメントに係る各委員会等とともにPDCAサイクルを展開しており、そのスケジュールは、おおむね推進会議に準じています。こうした編成会議におけるPDCAサイクルの展開については、推進会議への報告とその承認を経ることで、その適切性を担保するようになっています。

本学では、こうした推進会議と編成会議を中心とするPDCAサイクルを十分に機能させることを通して、本学の教育研究活動に関する質保証の確立とその充実を目指しています。

金城学院大学内部質保証の方針

2019年11月6日制定

金城学院大学（以下、「本学」という。）は本学の掲げる目標を実現するため、以下の通り、内部質保証の方針を定める。

1 基本的な考え方

- (1) 本学は福音主義のキリスト教に基づき、学校教育法にのっとり、女性に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、もって真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する人物を養成することを目的としている。本学が自ら掲げるこれらの目標の実現に向けて、教育研究活動をはじめとする諸活動は、本学の中期計画に基づき行われ、諸活動に携わる組織自らが、自己点検・評価を行い、質の保証とその改善・向上に向けた恒常的な取組みを推進する。

2 組織

- (1) 本学における全学的な内部質保証の取組みは、金城学院大学内部質保証推進会議（以下、「推進会議」という。）が統括・推進し、責任を負う。
- (2) 内部質保証の内、本学における教学マネジメントに関わる事項は、金城学院大学教育課程編成会議（以下、「編成会議」という。）が統括・推進し、責任を負う。

3 活動指針

(全学的な内部質保証)

- (1) 推進会議は、本学における内部質保証推進のため、金城学院大学内部質保証推進会議規程に定める活動を行う。
- (2) 学科・専攻及び委員会（以下、「各部門」という。）は、推進会議の定める基本方針に基づき、毎年度、自己点検・評価を行う。また、各部門は当年度点検・評価の結果及び次年度の計画をまとめ、推進会議に報告・提案し、改善指示に基づき改善に取組み、その結果を推進会議に報告する。推進会議は、各部門による改善結果の報告を受けてこれを確認する。

(教学マネジメント)

- (3) 編成会議は、本学における教育の内部質保証推進のため、金城学院大学教育課程編成会議規程に定める活動を行う。
- (4) 学科・専攻及び教育の内部質保証に係る委員会（以下、「教育の内部質保証に係る各部門」）は、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーに基づき、教育活動等を実施し、編成会議の定める方針に基づき、毎年度、自己点検・評価を行う。また、教育の内部質保証に係る各部門は当年度点検・評価の結果及び次年度の計画をまとめ、編成会議に報告・提案し、改善指示に基づき改善に取組み、その結果を編成会議に報告する。編成会議は、教育の内部質保証に係る各部門による改善結果の報告を受けてこれを確認する。
- (5) 編成会議は、教学マネジメントに関する自己点検・評価を取りまとめて推進会議に報告する。

4 情報公開

- (1) 本学の社会に対する説明責任を果たすために、毎年度の自己点検・評価報告書等の内部質保証の取組みに関する情報を適切に公表する。

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 分掌表

ビジョン	文言	視点	項目	アクションプラン	主な担当	
1 教育研究の推進と学習支援	学院の使命にあるように、「主を畏れることは知恵の初め」をスクールモットーとし、真理の探究を行うとともに、全人教育を行い、品格を備えた真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する女性を育成しなければなりません。また、主体的に学び、行動できる人材、グローバル化の中で、異なる言語、世代、立場を超えてコミュニケーションできる人材の養成が求められています。本学では、従来から国際理解を持つ自立した女性の育成を行なってきましたが、より一層、この点を意識して推進します。具体的には、 1 福音主義キリスト教に基づいた品格のある女性 2 自ら課題を発見し、解決できる女性 3 国際理解を持つ自立した女性を育成します。そのため、次の視点から検討し、実施します。	キリスト教主義に基づく全人教育、研究の推進	1 キリスト教主義に基づく全人教育	① 礼拝出席の奨励	キリスト教セ	
				② 学生の企画・参加型礼拝の実施		
				③ 近隣教会への出席の奨励		
				④ 金城アイデンティティ科目におけるキリスト教学関係科目の整備		教務委員会
				⑤ 教職員に対する修養会および学生向バイブル・キャンプの充実		キリスト教セ
			2 自ら課題を発見し、解決できるから	① アクティブラーニング等を通じた能動的な学びへの転換の推進	教務委員会 学科 マルチメディアセ	
				② リーダーシップ教育の推進	教務委員会 学科	
				③ ラーニング・コモンズや図書館の整備と利用の促進	学長室 図書館	
			3 国際理解の教育	① 交流協定校の拡大と受け入れ・送り出し留学生の増加	国際交流セ	
				② CASEC スコアの経年変化を基礎とした英語教育体制の運用と改善	教務委員会	
				③ 金城コア科目における英語および外国語科目の整備		
				④ 学内環境〔学内掲示〕における多言語化の推進	学長室	
			4 研究の推進	① 科研費等の競争的外部資金における申請・分担参加の奨励	学長室	
				② 学内助成や特別研究期間制度の整備と利用の促進		
				③ 女性みらい研究センターを中心とした地域社会支援プログラムの開発・研究	学長室	

	学生支援の推進	1 教学面での支援	① 学修ポートフォリオ等を活用した教育体制の構築	教務委員会 マルチメディアセ
			② ルーブリック等による客観的な成績評価の確立	教務委員会
			③ カリキュラム・マップに基づく履修体制の整備と改善	
			④ 学生・キャリア支援センター・教員の三者連携による就職支援の充実	学生生活委員会
		② 学生の課外活動やボランティア活動における支援体制の整備		
		③ 学生のマナー向上の推進	学生生活委員会 マルチメディアセ	
		④ 受け入れ・送り出し留学生の経済的支援の充実	国際交流セ	
		学生の受入の推進	1 質の高い学生の確保	① アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜の整備
	② 入学者選抜における「学力の3要素」の多面的・総合的な評価方法の確立			
	③ 新たな大学入学者選抜制度に対応する本学入試の検討			
		2 高大連携、接続	① 中高大教育協議会等の活用を通じた学校間における相互理解の拡充	学長室
			② 中高“Dignity”ルーブリックとの連続性を踏まえた高大接続の強化	
教学マネジメント体制の推進	1 教育体制	① 全学的な内部質保証体制の整備と運用	学長室 FD委員会	
		② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施	学長室	
		③ ディプロマ・ポリシーに基礎付けられた教学のPDCAサイクルの確立		
		④ アセスメント・ポリシーの適切な運用と改善		

				⑤ 「学生自己評価各期ごとの DP 対応ルーブリック」を通した学修成果の可視化	
				⑥ 外部試験の複数回実施によるコンピテンシーの経年的把握とその向上	
				⑦ 「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立	学科
				⑧ 定期的な授業評価の実施と VOX POP の作成・公表による教育力の向上	FD 委員会
2 地域社会との共生	社会の要請に応じ、産業界や行政等と連携を図りながら、研究や社会連携を行います。また、社会人等に対して生涯にわたる多様な学びの場を提供します。そのため、次の視点から検討し、実施します。	研究成果の社会への還元		① 教育・研究活動成果物のリポジトリ等を活用した発信のいっそうの促進	図書館
				② 各種講座、講演会、KIDS センターの子育て支援活動等を通じた地域社会への研究成果の還元	学長室
		生涯学習		① 女性みらい研究センターを中心とした、本学の理念にふさわしい生涯学習に関わるプログラムの開発と実践	学長室
				② 卒業生との連携をより密にとれる体制の構築	
		産学官連携、地域連携		① 地域社会の発展に貢献することを目的とした、企業、地方公共団体、「大学コンソーシアムせと」等との連携推進	学長室
				② 守山区との連携によるまちづくり、地域福祉向上、産業振興及び教育・文化・スポーツの振興及び発展のための活動推進	

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 2021年度進捗状況

通番	ビジョン-視点-項目-アクションプラン	所管会議	部門	到達目標（実施期間）	計画進捗状況	2021年度到達状況	2021年度活動概要
1	1-1-1-① 礼拝出席の奨励	推進会議	キリスト教センター委員会	学生に向けては、上級生の出席を促進させるため教員方の協力体制を強化。教職員に向けては出席率50%を目指し、呼びかけを強化（2020-24）	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	数字的には設定したものよりも少ないが、コロナ禍という状況を鑑みれば、十分に目標は達成できている。
2	1-1-1-② 学生の企画・参加型礼拝の実施	推進会議	キリスト教センター委員会	キリスト者学生の協力が不可欠なので、キリスト者学生の発掘と協力体制を強化（2020-24）	1_計画を上回り進んでいる	1_目標通り達成した	スマイス奨学金や牧師減免などの奨学金を受けているキリスト者学生を主に金城クリスチャン・フェローシップ（KCF）を立ち上げ、クリスマス礼拝、クリスマスツリー点灯式、平日の礼拝司会などで協力してもらい、意見交換も積極的にした。
3	1-1-1-③ 近隣教会への出席の奨励	推進会議	キリスト教センター委員会	機関紙クロニクルスや金城台上の教会紹介や牧師紹介の欄の充実（2020-24）	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	クロニクルスを金城台に合併、廃刊し、新たな試みとして学部長紹介や学生の寄稿を増やすなど内容を充実させた。宗教主事たちはキリスト教学やアイデンティティ授業で近隣教会への奨励を行っている。Web配信による月毎のお知らせも継続中。
4	1-1-1-④ 金城アイデンティティ科目におけるキリスト教学関係科目の整備	編成会議	大学教務委員会	2025年度の新共通教育科目のカリキュラム改定に向けてキリスト教学関係科目を検証し、検証結果を踏まえて科目を整備する。（2020-24）	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	看護学部設置準備室、大学宗教主事と協力し、時間割、担当者を決定し、開設準備は整った。
5	1-1-1-⑤ 教職員に対する修養会および学生向バイブル・キャンプの充実	推進会議	キリスト教センター委員会	教員キリスト教セミナーの出席率100%を目指してプログラムを検討改善（2020-24）	2_計画通り進んでいる	3_あまり達成できなかった	全体進捗状況と今年度進捗状況に乖離が見られるが、コロナ禍によるものである。なかなか収束を見ず、やむなく教員セミナーもバイブル・キャンプも中止したが、計画準備は万全に進んでいた。
6	1-1-2-① アクティブラーニング等を通じた能動的な学びへの転換の推進	編成会議	大学教務委員会	本学における能動的な学びを取り入れている科目を調査し、アクティブラーニングを定義し、その上で能動的な学びを強調した全学カリキュラムを構築する。（2020-24）	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	アクティブラーニングの定義について、コロナ禍においては、文部科学省の定義を使用することを大学教務委員会です承を得た。また、その定義に当てはめた場合の本学の実施率についても提示した。

9	1-1-2-① アクティブ ラーニング等を通し た能動的な学びへの 転換の推進	編成会議	マルチメディア センター委員会	アクティブラーニング等を支援するための ICT を利用した教育環境を整備する。	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達 成できた	manaba 利用実態の調査結果に基づき、授業での効率 的な活用方法に関する事例集をオンラインマニュアルに 掲載した。K ドライブの利用実態調査は次年度に行 う。
7	1-1-2-① アクティブ ラーニング等を通し た能動的な学びへの 転換の推進	編成会議	学科	未設定			
10	1-1-2-② リーダーシ ップ教育の推進	編成会議	大学教務委員会	リーダーシップ教育の推進にむけて、共通教育 科目にリーダーシップ教育に関わる科目を設置 する。(2020-24)	3_計画より遅れている が進んでいる	3_あまり達成できなか った	共通教育委員会でリーダーシップ教育への要望を聴取 した。全学必修科目で実施できるか否かの具体的内容 の検討に入っている。
11	1-1-2-② リーダーシ ップ教育の推進	編成会議	学科	未設定			
12	1-1-2-③ ラーニン グ・コモンズや図書館 の整備と利用の促進 (ラーニング・コモン ズ)	推進会議	学長室	学生ニーズに合う AV 機器への更新と利用者満 足度の向上 (2020-21)	3_計画より遅れている が進んでいる	3_あまり達成できなか った	現在個人の自主学習スペースとなっているため、アン ケートでは、充電器等の個人モバイル機器の設置を望 む結果となった。そのため今年度の AV 機器の更新計 画作成は見送ることとした。次年度以降、本来のラー ニング・コモンズの利用環境に戻った時に、再度アン ケートを取り、AV 機器の更新計画を作成する。
13	1-1-2-③ ラーニン グ・コモンズや図書館 の整備と利用の促進 (図書館)	推進会議	図書館委員会	図書館の利用状況に関する各種データの充実 と、それに基づいた図書館の整備と利用の促 進。(2020-24)	2_計画通り進んでいる	1_目標通り達成した	コロナ禍の状況において、対面授業比率の増減にした がって入館者数、貸出件数など来館を伴うサービス利 用は概ね増減している。他方、来館を伴わないサービ スの中でもレファレンスはサービス提供形態多様化の 結果、数が伸びている。来館を伴わないサービスを充 実させる一環として、電子書籍やデータベースを整備 し、その利用状況の把握に努めている。

14	1-1-3-① 交流協定校の拡大と受け入れ・送り出し留学生の増加	推進会議	国際交流センター委員会	現在、9 カ国 24 大学との交流協定を締結している。2023 年度までに、交流協定の締結を 10 カ国 30 大学にまで増加させる。(2020-23)	2_計画通り進んでいる	1_目標通り達成した	フランスのトゥールーズ・ル・ミライユ大学との協定(語学研修)は解除されたが、新たにベルギー・ゲント大学との交換留学協定、台湾・国立宜蘭大学、フランス・リュミエール・リヨン第二大学とそれぞれ派遣留学協定の締結をし、11 カ国・地域 26 大学との交流協定または覚書の締結を実現できた。また協定校からの留学生受け入れ再開はかなわなかったが、後期はオンラインで日本語科目 1 科目を希望学生に提供することで協定大学との関係維持に努めた。
15	1-1-3-② CASEC スコアの経年変化を基礎とした英語教育体制の運用と改善	編成会議	大学教務委員会	CASEC スコアの経年変化と現行カリキュラムとの関係を分析・把握し、これをふまえた授業改善案を提示する。(2020-24)	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	CASEC スコアの経年変化分析の報告書にまとめ、改善案として、英語基礎力重視のクラス設置を始めた。
16	1-1-3-③ 金城コア科目における英語および外国語科目の整備	編成会議	大学教務委員会	英語および外国語科目の授業について、評価・点検と継続的な改善を実施する。(2020-24)	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	英語教育科目では副専攻プログラムの評価・点検を継続して実施した。外国語教育科目では実態調査を行い、調査結果を授業担当者と委員で共有した。
17	1-1-3-④ 学内環境における多言語化の推進	推進会議	学長室	留学生にとってわかり易い学内環境の整備(2020-21)	3_計画より遅れているが進んでいる	4_全く達成できなかった	2021 年度は留学生の受入れが中止となったため、留学生へのアンケートが実施できなかった。次年度以降に留学生の受入れを再開した時に、アンケートを実施し、学内環境整備実施計画を作成する。
18	1-1-4-① 科研費等の競争的外部資金における申請・分担参加の奨励	推進会議	学長室	科研費等の競争的外部資金における申請・分担参加の促進を図る体制の整備(2020-24)	2_計画通り進んでいる	1_目標通り達成した	他大学の研究支援組織等について情報を収集し、不足している研究支援を行う事務体制について検討した。また競争的外部資金への申請をする上で重要な、研究倫理・コンプライアンス等を管理する学内体制を検討した。
19	1-1-4-② 学内助成や特別研究期間制度の整備と利用の促進	推進会議	学長室	学内助成や特別研究期間制度の整備や利用を促進する研究推進体制の強化(2020-24)	2_計画通り進んでいる	1_目標通り達成した	研究支援 HP を既存の大学 HP と一体化し、情報発信のサイトを統一することで効率的な周知が行える仕組みを整え、研究支援 HP の改修に着手した。

20	1-1-4-③ 女性みらい研究センターを中心とした地域社会支援プログラムの開発・研究	推進会議	学長室	女性みらい研究センター、KIDSセンター、および心理臨床相談室等における研究成果を、持続的に地域社会に対し還元する体制の整備（2020-24）	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	社会に向けたオープンリソースとして、本学教員の女性みらいに関する研究をホームページで紹介した。
21	1-2-1-① 学修ポートフォリオ等を活用した教育体制の構築	編成会議	大学教務委員会	マルチメディアセンターと協力し、学修ポートフォリオを有効活用した本学独自の教育体制を構築する。（2020-24）	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	利用頻度の高い manaba の機能についての調査を終え、今後加えたい機能のアンケートを実施した。
22	1-2-1-① 学修ポートフォリオ等を活用した教育体制の構築	編成会議	マルチメディアセンター委員会	大学教務委員会と協力し、学修ポートフォリオを有効活用するための ICT を利用した教育環境を整備する。	2_計画通り進んでいる	1_目標通り達成した	利用頻度の高い manaba の機能についての調査を終え、今後加えたい機能のアンケートを実施した。
23	1-2-1-② ルーブリック等による客観的な成績評価の確立	編成会議	大学教務委員会	ルーブリックの学生自己評価と取得単位数、GPAとの関連を検討することにより客観的な成績評価を確立する。（2020-24）	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	大学共通ルーブリックの学生自己評価とGPAデータの整理を行い、報告書を作成した。報告書は大学教務委員会で共有した。
24	1-2-1-③ カリキュラム・マップに基づく履修体制の整備と改善	編成会議	大学教務委員会	カリキュラム・マップに示されたDPと学生の履修状況との関連性を検証し、カリキュラム改定に生かせる体制を整備する。（2020-2024）	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	カリキュラム改革に利用できるよう、科目ごとのDP項目別履修者数を調査し資料にまとめた。資料は共通教育委員会で共有した。
25	1-2-2-① 学生・キャリア支援センター・教員の三者連携による就職支援の充実	推進会議	大学学生生活委員会	キャリア支援センターと教員が連携・協力することにより、学生の就職活動に対する課題解決の方法を構築する。（2020-24）	2_計画通り進んでいる	1_目標通り達成した	一年間を通して感染症の広がりによった対応を検討し、実行した。機会損失の防止を第一にオンラインでの個別相談を充実させるとともに、可能なかぎり対面での相談も実施して学生の精神的な支えになるよう努めた。
26	1-2-2-② 学生の課外活動やボランティア活動における支援体制の整備	推進会議	大学学生生活委員会	クラブ・サークルのボランティア活動に係る支援体制を整え、学生にとって充実したボランティア活動ができるように支援を行う。（2020-24）	3_計画より遅れているが進んでいる	4_全く達成できなかった	感染症の広がりによってボランティア派遣、活動は実施できなかった。状況の改善後、これまでに培われた経験やつながりが霧散してしまうことのないよう、情報の保管と伝達を継続する。
27	1-2-2-③ 学生のマナー向上の推進	推進会議	大学学生生活委員会	学内および学外における学生のマナーの向上。（2020-24）	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	電車内で騒がないなどの一般的なマナー遵守、向上にくわえ、感染症対策としての行動啓発を、学内での注意喚起に止まらず、年度途中からは駅-大学間の歩道、改札前にまで拡大して行った。

28	1-2-2-③ 学生のマナー向上の推進	推進会議	マルチメディアセンター委員会	コンピュータ教室のプリンタ利用と情報発信（メール、SNS等）に関するマナー向上のための対策（2020-22）	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	前期の印刷状況は2019年度比で約2割減であった。印刷枚数増加申請の減少から1日50枚制限ルールの浸透が伺える。後期も印刷状況の分析を行う予定である。情報リテラシーに関するオンラインマニュアルは3月中にmanabaへ掲載予定である。
29	1-2-2-④ 受け入れ・送り出し留学生の経済的支援の充実	推進会議	国際交流センター委員会	現在、奨学金支給総額が1053万5000円となっている（受け入れ・送り出し合計）。2023年度までに、奨学金支給総額を2000万円とする。（2020-23）	3_計画より遅れているが進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	2021年度中の送り出し留学再開は年度内にはなかなかなかったが、2022年度からの再開に向けて奨学金を配分した。
30	1-3-1-① アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜の整備	推進会議	入学センター委員会	アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜方法の整備（2020-23）	2_計画通り進んでいる	1_目標通り達成した	IR室の協力の下、PROGテストを用いて、入試種別ごとの基礎力を比較分析した。その結果、入学者選抜方法と基礎力との間にある程度の相関性がある事を見いだした。
31	1-3-1-② 入学者選抜における「学力の3要素」の多面的・総合的な評価方法の確立	推進会議	入学センター委員会	入試種別ごとに「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する方法の確立（2020-23）	2_計画通り進んでいる	1_目標通り達成した	入試種別ごとに課している選抜方法と「学力の3要素」の評価の結びつきを検証するための資料（表）の更新の有無を入学センター委員会で確認した。
32	1-3-1-③ 新たな大学入学者選抜制度に対応する本学入試の検討	推進会議	入学センター委員会	新たな大学入学者選抜制度に対応する本学入試体制の整備（2020-24）	2_計画通り進んでいる	1_目標通り達成した	新学習指導要領に基づく入学者選抜方法の検討を開始した。また、適宜、他大学の入試体制の情報収集を行った。
33	1-3-2-① 中高大教育協議会等の活用を通じた学校間における相互理解の拡充	推進会議	学長室	中高大教育協議会等の活用を通じた学校間における相互理解の拡充（2020-24）	2_計画通り進んでいる	1_目標通り達成した	2021年10月に開催された合同教授会にて、金城学院における中高大教育協議会の役割と連携事業について紹介し、大学教職員間で情報を共有した。

34	1-3-2- ② 中 高 “Dignity”ルーブリック との連続性を踏まえ た高大接続の強化	推進会議	学長室	中高“Dignity”ルーブリックとの連続性を踏まえた高大接続の強化（2020-23）	2_計画通り進んでいる	1_目標通り達成した	中高“Dignity”に対して大学の各学科より提示している研究テーマと参考文献を確認し、更新した。それによって、必要があれば更新することにより、高校での研究成果のまとめと大学での学びの結びつきを図った。また、2022年度金城学院高等学校高大接続型推薦入試の面接状況を各学科にヒアリングし、ここで抽出された改善点を入学センター委員会で共有する。
35	1-4-1-① 全学的な内 部質保証体制の整備 と運用	編成会議	学長室	各部門において金城学院中期計画大学関連項目に基づいた活動計画書を作成する。さらに、中間報告・活動報告を検証し、教育課程編成会議で次年度に向けた改善の指示及び改善結果の確認を行う。2020～2022年度の内部質保証に関わる取り組みの結果を元に教学関連の中期計画の原案を策定し、2025年度以降の内部質保証体制の改善・整備を行う。（2020-24）	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	2021年12月の大学基準協会の委員会案では「適合」の判定を得た。委員会案の内容を、内部質保証推進会議の小委員会にて検討できるよう、指摘の強度に合わせて5段階に整理した。
36	1-4-1-① 全学的な内 部質保証体制の整備 と運用	編成会議	大学 FD 委員会	内部質保証体制に関する全学的な理解の徹底と各部門内における組織的かつ多面的なFD活動の体制整備（2020-24）。	3_計画より遅れている が進んでいる	4_全く達成できなかった	第3期認証評価の委員会案が、2021年12月に提示されたため、その内容を精査する時間を設けたうえで情報共有のためのFD・SD交流集会を開催することとした。なお2021年度のFD・SD交流集会は、「人を対象とする研究の倫理に関する講演会」として対面・遠隔のハイブリッド形式で開催することとした。
37	1-4-1-② 3ポリシーの 一体的運用を根幹と した教育課程の編成 と学修成果の評価の 実施	編成会議	学長室	IR室の分析に基づいて、APに関係する入試状況と、CPやDPに関係する教育課程や学修成果の評価を連動させ、3ポリシーを一体的に検証する。（2020-24）	2_計画通り進んでいる	1_目標通り達成した	IR室において、2020年度入学生を対象として、GPAやPROGの点数を元に入試種別ごとに分散分析を実施した結果、入試種別ごとの特徴が明確になった。この結果は学長室会議にて共有した。

38	1-4-1-③ ディプロマ・ポリシーに基礎付けられた教学の PDCA サイクルの確立	編成会議	学長室	DPに基づいた学修目標を具体化し、学修成果についてはエビデンスを基にした情報が各部門に共有され、改善できる体制を構築する。 (2020-24)	2_計画通り進んでいる	1_目標通り達成した	各学科において「卒業に関わる科目のルーブリック評価」の精査を進めることができた。IR 室において、K-PORT のシステム改修作業を実施し、カリキュラム・マップの DP 項目ごとのデータ可視化の作業も終了した。その結果、今後、このデータをどこまで公開するかについて検討する必要があることが明確になった。
39	1-4-1-④ アセスメント・ポリシーの適切な運用と改善	編成会議	学長室	アセスメント・ポリシーに示されている各種データを基に経年変化や因果関係を分析する。この結果をもとに学生・各部門への情報提供を行う。また、アセスメント・ポリシーを改善するための基礎資料を作成する。(2020-24)	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	IR 室において、各部門(学科・専攻)の要望を取りまとめた。資格等のデータ収集については、関係する部門の意見を聴取した。それをもとに継続性・分析活用も視野に収集方法を検討中である。2017 年度生の卒業生アンケートについては就職状況の情報の紐付けを行い、データ整理が終了している。分析も 2021 年度中に終了予定である。
40	1-4-1-⑤ 「学生自己評価各期ごとの DP 対応ルーブリック」を通じた学修成果の可視化	編成会議	学長室	「学生自己評価各期ごとの DP 対応ルーブリック」を入学時から卒業時まで年 2 回実施し、その経年変化を分析することで学修成果を可視化する。また、学生に対して自らの成長に関するデータを提供できるシステムを確立する。(2020-24)	2_計画通り進んでいる	1_目標通り達成した	IR 室において、「学生自己評価各期ごとの DP 対応ルーブリック」の経年変化の分析を実施し、結果を学長室会議にて共有した。なお、その結果は私立大学情報教育協会にて発表を行った。GPA との関連性についても集計・分析が終了し、教務部長を通して大学教務委員会に提供済みである。
41	1-4-1-⑥ 外部試験の複数回実施によるコンピテンシーの経年的把握とその向上	編成会議	学長室	外部試験 (PROG テスト) を入学時を含め在学中 2 回実施し、経年変化を分析することによって学修成果を可視化する。さらに、他の大学や全国平均との比較分析から、本学の特徴を抽出し、学修目標の改善に生かす。(2020-24)	2_計画通り進んでいる	1_目標通り達成した	IR 室において、PROG テストの結果の単純集計は終了している。因果関係の分析も終了している。
42	1-4-1-⑦ 「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立	編成会議	文学部 日本語 日本文化学科	学科 DP に対応したルーブリックを作成し、4 年間の継時変化による可視化の情報収集ができるようにする。(2020-22)	2_計画通り進んでいる	1_目標通り達成した	「卒業に関わる科目」に関する学科 DP に対応したルーブリック (2020 年度に学科で検討した改訂版) について「卒業論文演習」の中で学生に対し提示し、評価に適用することを試みた。

43	1-4-1-⑦「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立	編成会議	文学部 英語英米文化学科	学科 DP に対応したルーブリックを作成し、4年間の継時変化による可視化の情報収集ができるようにする。(2020-22)	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	「卒業に関わる科目」に関する学科 DP に対応したルーブリック改訂版を確認し、当該年度及び次年度以降のルーブリックの運用に関して学科で意見交換し、「専門演習」、「通訳演習」などの科目内で試行した。
44	1-4-1-⑦「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立	編成会議	文学部 外国語コミュニケーション学科	学科 DP に対応したルーブリックを作成し、4年間の継時変化による可視化の情報収集ができるようにする。(2020-22)	3_計画より遅れているが進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	学科 DP のうち、外国語コミュニケーション学科独自の基準となるのは、汎用的技能(2)(3)であるが、特に3の「多様な人々とコミュニケーションをとることができる」は、コロナ禍で留学ができず、留学生もいない状況において、達成がかなり難しいのが現状である。この基準における上位の達成度を現状に合わせて設定するか、留学、留学生が回復した状況を前提に設定するかは熟考を要する。
45	1-4-1-⑦「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立	編成会議	文学部 音楽芸術学科	学科 DP に対応したルーブリックを作成し、4年間の継時変化による可視化の情報収集ができるようにする。(2020-22)	2_計画通り進んでいる	1_目標通り達成した	「卒業にかかわる科目」に関する学科 DP に対応したルーブリック(2020年度に学科で検討した改訂版)について、「卒業演奏」試験に口頭試問を行い、評価に適用することができた
46	1-4-1-⑦「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立	編成会議	生活環境学部 生活マネジメント学科	学科 DP に対応したルーブリックを作成し、4年間の継時変化による可視化の情報収集ができるようにする。(2020-22)	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	2020年度中に作成した「卒業に関わる科目」ルーブリック改訂版を manaba 上で公開し、ゼミの個人面談で当学科が独自に行っている目標設定と達成度評価の参考資料として使用した。学科別協議会においてルーブリックの運用状況について情報共有を行い、多領域の専門で構成された当学科の実態に適した運用の必要性を確認した。
47	1-4-1-⑦「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立	編成会議	生活環境学部 環境デザイン学科	学科 DP に対応したルーブリックを作成し、4年間の継時変化による可視化の情報収集ができるようにする。(2020-22)	2_計画通り進んでいる	1_目標通り達成した	卒業研究発表を終了した学生に対し、ルーブリック「卒業研究演習・卒業論文/制作」にもとづいた自己評価アンケートを実施した。

48	1-4-1-⑦「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立	編成会議	生活環境学部 食環境栄養学科	学科 DP に対応したルーブリックを作成し、4年間の継時変化による可視化の情報収集ができるようにする。(2020-22)	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	教務委員を中心にルーブリック原案を作成した。本年度、ルーブリックを用いて授業評価を行った。
49	1-4-1-⑦「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立	編成会議	国際情報学部 国際情報学科	学科 DP に対応したルーブリックを作成し、4年間の継時変化による可視化の情報収集ができるようにする。(2020-22)	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	「卒業に関わる科目」のルーブリックを改訂し、試行的に複数のゼミで評価を実施した。そこでの課題を踏まえ、2022年度は更なる改良を施し、完成を目指す。
50	1-4-1-⑦「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立	編成会議	人間科学部 現代子ども教育学科	学科 DP に対応したルーブリックを作成し、4年間の継時変化による可視化の情報収集ができるようにする。(2020-22)	3_計画より遅れているが進んでいる	3_あまり達成できなかった	学科主任・教務委員・FD委員を中心にルーブリックの改訂作業を進めている。しかし、実際に学生に試行して検証することはできなかった。次年度、学生に試行とインタビューを行い、ブラッシュアップを行う予定である。
51	1-4-1-⑦「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立	編成会議	人間科学部 多元心理学科	学科 DP に対応したルーブリックを作成し、4年間の継時変化による可視化の情報収集ができるようにする。(2020-22)	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	おおむね計画通りに進捗しているが、次年度の改訂作業に向けた問題点の洗い出し・修正項目の策定の必要性についても検討する必要がある。これにより、「卒業に関わる科目」に関する学科DPに対応したルーブリックの質を高めていく。
52	1-4-1-⑦「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立	編成会議	人間科学部 コミュニティ福祉学科	学科 DP に対応したルーブリックを作成し、4年間の継時変化による可視化の情報収集ができるようにする。(2020-22)	1_計画を上回り進んでいる	1_目標通り達成した	2018年度から学科教務委員を中心に継続的に検討してきた「卒業に関わる科目」に関する学科ルーブリックを、2021年9月の学科別協議会において再度審議し、完成版を作成した。
53	1-4-1-⑦「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立	編成会議	薬学部 薬学科	学科 DP に対応したルーブリックを作成し、4年間の継時変化による可視化の情報収集ができるようにする。(2020-22)	2_計画通り進んでいる	1_目標通り達成した	4月に、調査時点での到達度を学生個々に評価させた。その学生の評価状況と内容について過年度の数値と比較しながら引き続き解析を行う。
54	1-4-1-⑧ 定期的な授業評価の実施と VOX POP の作成・公表による教育力の向上	編成会議	大学 FD 委員会	VOX POP において授業評価アンケート結果を適切に公開し、これをふまえた授業等へのフィードバックができる体制を確立する。(2020-22)	3_計画より遅れているが進んでいる	3_あまり達成できなかった	2021年度も COVID-19 の感染拡大にともない、開講形態が対面・遠隔とで変動したことにより、アンケート形式の検討が進まなかった。このため、2021年度は対面・遠隔各々でアンケートを行った。2022年度はこの結果を踏まえて、アンケートを設計する。

55	2-1-① 教育・研究活動 成果物のリポジトリ 等を活用した発信の いっそうの促進	推進会議	図書館委員会	リポジトリの管理運営の適正な実施。(2020-24)	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	国立情報学研究所によるリポジトリの管理システムの更新が2020年7月から12月、さらには2021年2月に延期され、さらに先行きが不透明になった。新システム移行後に管理運営の実態を改めて記録し、管理運営上の問題点の把握に努める。なお、出版社からオープンアクセスの許可を得た学術雑誌掲載論文のリポジトリへの登録作業を進めた。
56	2-1-② 各種講座、講演会、KIDSセンターの子育て支援活動等を通じた地域社会への研究成果の還元	推進会議	学長室(心理臨床相談室)	女性みらい研究センター、KIDSセンター、および心理臨床相談室等における研究成果を、持続的に地域社会に対し還元する体制の整備(2020-24)	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	関係機関リストを整備するとともに、当相談室における心理検査実施に関するリーフレットを配布した。関係機関からは、複数の検査依頼を受諾し、地域のニーズに対応した。また、電話相談、web相談について体制を整備し、相談員および利用者への周知をおこなった。電話相談、web相談ともに、感染拡大期に活用することができた。
57	2-1-② 各種講座、講演会、KIDSセンターの子育て支援活動等を通じた地域社会への研究成果の還元	推進会議	学長室(KIDSセンター)	女性みらい研究センター、KIDSセンター、および心理臨床相談室等における研究成果を、持続的に地域社会に対し還元する体制の整備(2020-24)	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	2021年度も新型コロナウイルス感染症の為、子育て支援活動が全国的に中断されたが、子育て支援及び心理臨床分野の知見に基づき、非日常下にある親子に対し日常の場を提供すべきと判断し万全の感染対策を講じ支援を継続した。また、広く地域社会のニーズに応えるため、守山区役所民生子ども課と連携し、地域の子育て支援資源との情報交換会を開催した。
58	2-1-② 各種講座、講演会、KIDSセンターの子育て支援活動等を通じた地域社会への研究成果の還元	推進会議	学長室(女性みらい研究センター)	女性みらい研究センター、KIDSセンター、および心理臨床相談室等における研究成果を、持続的に地域社会に対し還元する体制の整備(2020-24)	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	IR室の協力を得て女性に関する基礎研究のデータ収集が終了した。

59	2-2-① 女性みらい研究センターを中心とした、本学の理念にふさわしい生涯学習に関わるプログラムの開発と実践	推進会議	学長室	女性みらい研究センターを中心とした、本学の理念にふさわしい生涯学習に関わるプログラムの開発と実践ができるシステムの構築 (2020-24)	4_全く進んでいない	4_全く達成できなかった	対面による生涯学習プログラムの企画運営が不可能であったため延期した。今後、感染状況に左右されない新たなアプローチによる生涯学習への取り組みを検討したい。
60	2-2-② 卒業生との連携をより密にとれる体制の構築	推進会議	学長室	卒業生との連携をより密にとれる体制の構築 (2020-24)	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	学科同窓会と大学との意見交換の場を持つことは出来なかったが、新たに運用を開始した在学生・卒業生向け金城学院アプリはダウンロード数が順調に推移し、公式 Instagram と共に卒業生とのつながりを強化するための定期的な情報発信が出来た。
61	2-3-① 地域社会の発展に貢献することを目的とした、企業、地方公共団体、「大学コンソーシアムせと」等との連携推進	推進会議	学長室	地域社会の発展に貢献することを目的とした、企業、地方公共団体、「大学コンソーシアムせと」等との連携を推進する全学的体制の整備 (2020-24)	2_計画通り進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	収集した他大学事例を参考にし、本学の特色や規模を踏まえた基本方針について検討した。
62	2-3-② 守山区との連携によるまちづくり、地域福祉向上、産業振興及び教育・文化・スポーツの振興及び発展のための活動推進	推進会議	学長室	守山区との連携によるまちづくり、地域福祉向上、産業振興及び教育・文化・スポーツの振興及び発展のための活動推進 (2020-24)	3_計画より遅れているが進んでいる	2_目標をある程度、達成できた	過去の産学官連携の協定実績を整理し、大学として連携事業を行ってきたリソースについて確認出来たが、学内での共有には至らなかった。